

「自律」「共生」 ～学力向上 感動の創造 共有・一体感～

南部中学校だより

2024.1.26 第11号



玄関で静かに春の訪れを待つ
～シクラメン～

苦しいとき、つらいときに沁みる言葉や行動について思うこと

南部中学校長 黒見隆久

1月もあっという間に「行って」しまいました。2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われるほど、月日、時間が早く過ぎていくように感じられるのは、日本独特の感覚なのかも知れませんがね。

今年のスタートは、能登半島地震、羽田空港の旅客機事故など、悲しく心痛む出来事がありました。能登半島地震では、200名を超える方々の尊い命が失われ、未だ行方不明者もおられます。避難所での生活を余儀なくされる方々のニュースを見るにつけ、「自分には何ができるのだろうか？」と自問自答したり、今すぐに何もできない自分にいらだちや無力感を感じます。被災地の方々に一日も早く安心、安全な生活が戻ることを願うばかりです。

そんなつらい話題の中でも、被災地に多くの支援ボランティアの参加があることも報じられています。一般の方も含め、各都道府県・市町村、消防署、警察署、自衛隊などから救助、捜索、避難所支援、事務手続き補助などさまざまな支援の手が届けられています。南部町からも役場職員の方々が出掛けられたと聞いています。

苦しい思いをしているときにこそ、本当の人の温かさや優しさが感じられるのだと思います。先日、車のラジオを聴いていた時に、被災した方からのこんな投稿が読まれました。

『〇〇に住む友人から、「大丈夫？」って連絡があった。本当は大丈夫じゃないけど、「大丈夫」としか言えなかった。とてもつらくなってしまった・・・。』

遠くに住む友人はこの方のことをとても心配して、「大丈夫？」と声を掛けたに違いありません。この方は、そんな友人に心配を掛けたくなくて思わず「大丈夫」と答えたのだと思います。でも実際は・・・。

どう声を掛ければ良かったのか？・・・何が正解なのか？・・・はわかりません。（一人ひとりが考えてみるべきことかなと思います。）私もごく当たり前の光景、やりとりとして感じていましたが、思わずハッとしました。人権教育でも「相手の気持ちを考えて」とか「相手の立場になって」とかよく言います。しかし「相手の気持ちに寄り添う」というのは、そう簡単なことではないんだな、心から相手を心配し、いたわり、尊敬の念を持って接するということは、どういうことなんだろうと改めて考えました。

こうやってお互いに支え合い、励まし合って生きていくことは、私たち人間の素晴らしい、誇らしい、賞賛すべき能力であり感性だと思います。当たり前の日常の中でも、ふっと自分の見方や考え方を振り返ってみることは必要なことかも知れませんがね。保護者の皆さま、地域の皆さま、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

生徒の学びを支える PTA の取組 ～町へのPTA要望書より～

昨年10月、南部中PTAは南部町へ「PTA要望書」を提出しました。「要望書」とは、毎年南部中学校PTAが、「学校や地域の危険場所の安全対策」「施設・設備の充実」「教育活動充実のための体制づくり」などの視点で、改善してほしいことを町へ提出しているものです。学校も、PTAと足並みをそろえて同じような項目を要望しています。このように、学校と保護者が連携して、「生徒が安心・安全に学べる学校づくり」を進めることが大切です。今年もまもなく、町からの回答書が届きます。

【今年度、南部中学校PTAが町へ提出した「要望書」より抜粋】

○通学路の安全設備の整備

登下校の交通安全確保のため、校門(2カ所)付近及びその近辺に適切な安全設備の整備をお願いします。学校付近の道路は狭く、登下校時に交通量が増え、車から生徒が見えづらく大変危険です。注意喚起表示の設置、白線の塗り直し(駐在所～庁舎前交差点)、グリーンベルトの設置をお願いします。

○トイレの全面改修

生徒が日常的に利用しているトイレの壁面・床・排水溝などの老朽化が進んでいます。特に、トイレの個室はスペースが極端に狭く、ほとんどが和式便器のため利用しづらく、また「汚い」「暗い」「臭い」といった声が生徒から聞かれます。快適なトイレは、生徒たちの精神面や健康面にとっても重要であり、それは学習に取り組む姿勢にも直結しています。本校舎トイレの全面改修をお願いします。



○放課後の部活動の設備と用具の支援

令和5年度より部活動が希望入部制になり、それに伴って全家庭より集金しているPTA会費で活動に十分に必要経費を集金することができなくなりました。本来、学校内での放課後の体育・文化活動は各自自治体が主体となって進められるべきものです。生徒の活動に必要な最低限の備品や用具類の費用は、町で予算化していただくようお願いします。

○スクールカウンセラーの来校回数の増加

SCの来校は現在月に1, 2回であり、相談活動をはじめとして生徒と触れ合う時間も十分とはいえません。来校時間が増えれば、保護者や生徒の相談にしっかり対応できるようになります。SCの来校を毎週に増やしていただくことを希望します。

自分の考えやアイデアを持つこと ～高校入試制度改革～

昨年度より、推薦入学者選抜に代わり、「自己推薦入試(私立)」「特色入学者選抜入試(県立)」が始まりました。実施校が示す「求める生徒像」に向けて努力し、要件を満たせば、自己推薦書やプレゼン、面接、作文などで自分の意志で受検できるというものです。

自己推薦書のテーマの例

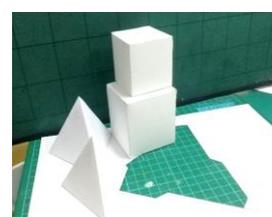
- 本校で頑張りたいこと・将来目指したいことを具体的に書いてください。

面接でよく聞かれる6大質問

- ①本校を志望した理由 ②入学してからやりたいこと
- ③中学3年間で印象に残っていること(頑張ったこと)
- ④自分の長所 ⑤将来の夢 ⑥最近のニュース

プレゼンテーションの例

- 「中学校時代に頑張ったこと・今後頑張りたいこと(5分)」(米子西)
- 「中学校の総合的な学習の時間で取り組んだこと(5分)」(米子)
- 「ペーパークラフト…四面体または六面体の製作(30分)」(米子工業)



米子工業のペーパークラフトの制作例

高校入試制度は社会の変化に合わせて毎年のように改革されています。今中学生に必要なとされている力は、与えられたことを解決するだけでなく、自分の考えやアイデアを持ち、それを表現できる力であると感じます。

